

女子中高生理系進学推進セミナー2026 開催レポート

2026 年 8 月 24 日（月）、名古屋大学 ES 総合館を会場に、2026 年度女子中高生理系進学推進セミナー「女子中高生×保護者のための理系オープンキャンパス」を開催しました。保護者も参加可能な企画は昨年度に引き続いたものです。今年度は対面参加とオンライン参加のハイブリッド形式とし、オンライン参加の方のみの企画も用意しました。理系分野に関心を持つ女子中高生とその保護者約 180 名が会場を訪れたほか、約 90 名がオンラインで参加いただきました。会場の参加者の比率は高校生 45%、中学生 15%、保護者 40%でした。多くの中高生や保護者の方々にご参加いただき、会場は熱気に包まれました。



【プログラムの内容】

理系学部を知ろう

最初のプログラムでは、いろいろな理系の学部や大学院を知ってもらい、学びたいと思う分野を考えてもらうために、名古屋大学の理系学部の内容について教員から紹介しました。また、各学部の紹介では就職先などの説明も行われ、卒業後の進路についても考えていただく機会となりました。

・山崎真理子先生（ジェンダーダイバーシティセンター長／生命農学研究科副研究科長）

名古屋大学全体の理系学部の規模や、学部と大学院のつながり、女子学生比率について説明がありました。理系全体では学生の約 27.5%が女子学生であり、理系の学生数が多いため大学全体でも約 20%が理系女子であり、「理系女子は珍しい存在ではない」ということが説明されました。さらに、山崎先生ご自身も農学部の卒業生であることから、卒業後に研究や教育の現場で女子学生が広く活躍している様子を具体例とともに紹介されました。

・岸田英夫先生（工学研究科副研究科長）

「工学は社会問題などから課題を見つけ、数学や科学の知識を用いて課題解決の道筋を切り拓く学問である」として、地球温暖化を例に工学の役割が説明されました。また、工学部全体のキャリアパスについても紹介されました。女子学生に関しては、学校推薦型選抜における女子枠の設定や工学女子学生ネットワークを活用した情報共有など、ジェンダーダイバーシティへの取り組みが紹介されました。さらに、女子学生の比率が年々高まっている現状についても説明されました。

・上川内あづさ先生（理学研究科副研究科長）

数理学科、物理学科、化学科、生命理学科、地球惑星科学科の5つの学科の特色をわかりやすく解説してくださいました。1年次に幅広い基礎を学び、2年次以降に自分の関心分野を深めていく理学部の学びの流れや、多くの卒業生が大学院に進学して研究を続けている実情が紹介されました。また、学部や大学院を卒業した後の進路も紹介され、卒業生が教員や研究者、民間企業の技術者として社会で活躍している例も取り上げられ、基礎科学の奥深さと将来の可能性が説明されました。

・大蔵聡先生（生命農学研究科副研究科長）

農学は、科学的な知見（基礎研究の成果）に基づいて、社会的な問題を解決する学問であり、「食」「環境」「健康」に関する様々な課題を解決し、人類の生活の向上と充実を図ること」が農学部や大学院の生命農学研究科のミッションであると説明されました。生物環境科学科・資源生物科学科・応用生命科学科の3学科について紹介があり、農学部では女子学生の比率が4～6割と理系学部の中でも特に高いことが紹介されました。また、学部や大学院を卒業した後の進路としては、公務員や食品・製薬・農業業界などで、学科毎で多少異なることも紹介されました。



写真 会場風景



写真 キャンパスライフを語る女子学生

理系女子学生のキャンパスライフを知ろう

続いて、理系女子学生の大学生活について知ってもらうために、現役の女子大学院生2名が、自身の体験を交えて大学生活や研究の様子を語ってくださいました。

谷口美友さん（工学研究科 M2）は、物質プロセス工学専攻で金属の3Dプリンターを使った材料特性の作り分けの研究を行っており、小学校時代から「面白い!」「もっとやりたい!」を追いかけ続けてきたと説明されました。カナダの学会に参加したことや学部のプログラムでシアトルに派遣されたことなどの経験の他、学生実験のレポート、院試、就活など大変だったことを率直に語られました。

中島杏さん（理学研究科 M1）は、高校2年生の冬に理系を選択し、医学・法学・薬学・理学など色んな分野に興味があったが、最終的に高校3年生秋に名古屋大学理学

部を第一希望にしたことなど、悩みながらも進路選択をしていった理由を説明されました。また、大学に入ってから学科や研究室配属選択、就職活動で考えたことも説明されるとともに、現在の有機化学研究室での研究の楽しさや、やりがいを語られました。

学部・研究室見学ツアー

後半は、現地参加者には建物や施設を見学して大学や研究室の雰囲気を体感してもらうために、多彩な研究現場を実際に見学するツアーを行いました。今回は全部で16のコースを用意し、参加者は事前に工学部のコースで第3希望まで、その他の学部のコースで第3希望までを選択していただきました。当日は希望をもとにコース分けが行われました。普段はなかなか入ることのできない研究室や施設に足を踏み入れ、先生や学生から直接説明を受けられる貴重な時間となりました。

見学コース一覧

コース1 (情報学部)	情報によって変わるモビリティ社会 ―組み込みシステム研究センターの活動紹介―
コース2 (理学部)	数学って何を研究するの? ― 現状の分析・最適化から予測の世界へ!
コース3 (理学部)	理学部研究室見学ツアー ― 物理と化学の最前線へ
コース4 (農学部)	微生物やタンパク質を扱うバイオ研究室を見学してみよう
コース5 (農学部)	未来の食料を支える植物科学: 作物を改良する研究をのぞいてみよう
コース6 (農学部)	研究で使う魚を見てみよう
コース7 (創薬科学研究科)	創薬科学は分野融合の場所: 化学と生物の融合研究はどんなところでやっているの?
コース8 (工学部・化学生命工学)	触媒の匠工房
コース9 (工学部・物理工学)	マイナス 196℃の不思議な世界を体感して超伝導研究の最前線に触れよう
コース10 (工学部・マテリアル工学)	すばらしき材料研究の世界 [超軽量材料/医療用金属材料]
コース11 (工学部・電気電子情報工学)	コンセントの向こう側をのぞいてみよう~電気を届けるしくみの今と未来~
コース12 (工学部・電気電子情報工学)	暗号: 数学が支える情報セキュリティ技術の土台を見てみよう
コース13 (工学部・機械・航空宇宙工学)	ミクロな世界でものづくり: 最先端の機械工学を支えるマイクロ・ナノ技術を見てみよう
コース14 (工学部・)	・生命のしくみを工学と情報で探る: からだを理解し、再現し、

機械・航空宇宙工学)	人を支えるバイオサイバネティクス
コース 15 (工学部・エネルギー理工学)	工学部でガン治療の研究？最新の加速器型ガン治療装置とは？
コース 16 (工学部・環境土木・建築学)	大学における建築学の教育研究活動



写真 イネの穂のかたちの違いを解説
(コース 5)



写真 質問コーナーの状況

模擬講義

現地参加者が見学ツアー中の時間に、オンライン参加者の方には、理学部と工学部の女性教員による模擬講義を聞いてもらいました。

川村友美先生(理学部数理学科)からは、「思っていたのとは違うかもしれない数学：結び目のトポロジー」と題し、紐の両端をとじ合わせてできる空間図形である「結び目」の理論について説明されました。また、暗号理論、DNA 結び目、分子構造などへの効用も期待されていることも紹介されました。

井料美帆先生(工学部 環境土木・建築学科)からは、「人が主役の道路をつくるー工学から考える快適な交通空間ー」と題し、立ち乗り型の電動車など新しい乗り物が出る中で、歩行者が安心して道路を使うために、人・車の行動のモデル化や人の行動心理分析について説明されました。

お二人の先生は、専門分野を選び大学教員になった理由なども紹介され、女性研究者の魅力も参加者に話されました。

何でも質問コーナー

現地参加者への最後の企画は「何でも質問コーナー」です。

この時間では、工学部・理学部・医学部・農学部・情報学部の5学部ごとにブースが設けられ、それぞれのブースには教員と女子学生が常駐しました。参加者は興味のある学部を訪れ、学びの内容や研究の特徴、大学生活のリアルな様子について熱心に質問していました。また、複数の学部のブースで質問する参加者もいました。「大学ではどのように過ごしているのですか?」「宇宙について学ぶにはどの分野に進めばいいですか?」といった様々な質問に対し、教員と学生が丁寧に回答しました。

【参加者の声】

アンケートには現地参加者から 102 件、オンライン参加者から 22 件の回答をいただきました。参加した感想は、とても良かった・良かったが 90%以上で大変好評で、特に女子学生の話は約 95%が良かった以上で高く評価されました。また、自由記述でも多数の感想をいただきました。

- ・「建物がとてもきれいだった。実際に来てみなければ、わからなかった。」(中学生)
- ・「医者が癌を取り除くための練習用臓器をゲルで作れることがすごいと思った。」(中学生)
- ・「理系を選ぶ女子がまだまだ少ないと思うので理系女子のキャンパスライフなどを知れて良かったです。」(高校生)
- ・「理系学部は名前を知っていても詳しくはわからないものも多いためとても良い機会でした。文理選択する前に参加できていたらよかったなと思うほどとても参考になりました。」(高校生)
- ・「自分も研究してみたくなるくらい面白いお話でした。」(保護者)
- ・「実際の学生の方からどんな研究をしているのか聞いたことは、その学部に入ってどんなことができるのかわかりよかった。また、学生の方々がみんな生き生きと話されている姿がとても好印象でした。」(保護者)
- ・「女子学生の話では、研究が忙しくて就活に集中出来なかったなど、忖度のない正直な思いが聞けてとても良かったです。先生の授業は難しくてわからなかったけど、その分野への愛をすごく感じ、わからないのにワクワクしました。」(保護者、オンライン参加)

また、今後興味のある企画や知りたい内容として、「研究器具を使った実験に参加してみたい」「放射線や検査技師など保健衛生関係の企画があったら参加してみたい」「各学部の学びをもう少し詳しく知りたい」「大学の寮にいる女学生の割合など具体的に知りたい」といった意見も寄せられ、今後の企画づくりに活かせる貴重な意見となりました。

【まとめ】

2026 年度は、対面とオンラインのハイブリッド型で、対面参加者には見学ツアー、オンライン参加者には模擬講義に参加いただく工夫をしました。参加者にとって、理系の魅力を知り、大学や学生とつながる充実した学びと出会いの場となりました。

名古屋大学では、これからも女子中高生の理系進学を積極的に支援し、一人ひとりが未来に向けて大きな一歩を踏み出せるよう応援してまいります。

ご参加いただいた皆さま、そして運営にご協力いただいた先生方・学生の皆さま、本当にありがとうございました。